

平成25年度

事業報告書

社会福祉法人

四日市市社会福祉協議会

目 次

◎ 会務報告	1
◎ 総括	2
1. 市民啓発事業	
(1) 社協だより「かけはし」の発行	3
(2) 四日市市社会福祉大会の開催	4
(3) ホームページの更新	4
2. 福祉ボランティアのまちづくり事業	
(1) 相談援助業務	4
① ボランティアコーディネート業務	
② 相談業務	
(2) 情報収集と提供	5
① ボランティアニュース「ボランティアのたまご」の発行	
② ボランティア団体会員募集一覧冊子の作成	
③ ホームページの更新	
④ フェイスブックの更新	
(3) ボランティアのきっかけづくり事業	5
① はじめてのボランティア説明会の開催	
② 夏休み子どもボランティア体験の開催	
③ 福祉教育推進事業・福祉教育への支援	
④ 教職員福祉教育講座の開催	
(4) 人材育成事業	7
① 子どもと障害児・者のサポート講座の開催	
② ボランティアリーダー研修会の開催	
(5) 活動支援（助成）事業	8
① 外出援助サービス保険料助成事業の実施	
② ボランティア活動保険の加入促進	
③ 全国ボランティアフェスティバル高知の参加支援	
(6) 協働事業	8
① 四日市ボランティアキャンペーンの開催	
② ボランティアのつどいの開催	
③ 学生〔高校生・大学生〕ボランティア連携事業	
④ コーディネートを考える会議の開催（ボランティアセンター運営に関する会議）	
(7) 防災・災害支援事業	10
① 東日本大震災等被災地支援団体情報交換会	
② 災害ボランティアセンター推進協力員研修会	
3. ふれあいのまちづくり事業	
(1) 地区社会福祉協議会支援	11
① 地区社協への運営費等の助成	
② 地区社協指導者研修会等の実施	
③ 福祉協力員等活動費補助事業の実施	

④地域福祉活動メニュー事業の実施	
(2) 地域福祉活動支援	17
①福祉コミュニティの推進	
②先駆的事業の開発	
・ 四日市市地域後見サポート事業の実施	
・ なるほど出前講座の開催	
(3) 四日市市福祉教育大学	17
①四社協福祉ゼミナールの開催	
②地域福祉ゼミナールの開催	
③専門ゼミナールの開催	
④公開講座の開催	
(4) 福祉総合相談事業	18

4. 福祉事業

(1) 介護保険関連事業	19
①居宅介護サービス事業（介護予防事業含む）の実施	
・ 訪問介護事業の実施	
②居宅介護支援事業の実施	
③介護保険認定調査業務の実施	
④通所介護事業「ゆりかもめ」（介護予防事業含む）の実施	
(2) 在宅福祉事業	21
①地域福祉権利擁護事業の実施	
(3) 障害者自立支援事業	22
①居宅介護事業の実施	
(4) 福祉施設等管理運営事業	22
①中地域包括支援センター	
②くす在宅介護支援センター	
③中央老人福祉センター	
④障害者自立支援施設「共栄作業所」	
⑤障害者自立支援施設「たんぼぼ」	
⑥障害者自立支援施設「あさけワークス」	
⑦障害者福祉センター	
⑧障害者自立生活支援センター「かがやき」	
⑨視覚障害者福祉センター	
⑩障害者就業・生活支援センター「プラウ」	
⑪障害者就労支援事業ワークセンター	
⑫よっかいち福祉の店	
⑬おもちゃ図書館	
⑭母子福祉センター	

5. その他の事業

(1) 第4次地域福祉活動計画の推進	33
(2) 福祉サービス相談窓口の開設	33
(3) 職員の安全衛生	34
(4) 資金貸付事業の実施	34
①生活福祉資金貸付事業の実施	
②資金貸付事業の実施	
(5) 実習生等の受け入れ	35

(6) 財政基盤の安定化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

- ①社会福祉協議会会員会費
- ②善意の基金
- ③収益事業の実施
 - ・「喫茶ふれあい」の経営
 - ・「総合会館売店」の受託運営
- ④共同募金運動（三重県共同募金会四日市市共同募金委員会事業）の推進
- ⑤寄付金等
- ⑥資産運用

【会務報告】

理事会の開催

- ・第1回 平成25年5月25日(土) 午前10時～12時 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 会長、副会長の選任及び職務代理者の選任について
2. 平成24年度事業報告及び収支決算報告について
3. 平成24年度監査結果報告について
4. 任期満了に伴う評議員の一斉改選について
5. 各種規程の一部改正について

- ・第2回 平成25年8月30日(金) 午後2時～3時30分 市総合会館8階第4会議室
議案 1. 評議員の一部変更について
2. 四日市市社会福祉大会における社会福祉功労者の表彰について
3. 各種規程の一部改正について

- ・第3回 平成25年12月2日(月) 午後2時～3時30分 市総合会館7階第1研修室
議案 1. 社会福祉法人四日市市社会福祉協議会 指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について
2. 新たな基金の創設について

- ・第4回 平成26年3月26日(水) 午後2時～3時30分 市総合会館8階第4会議室
議案 1. 理事及び評議員の一部変更について
2. 副会長及び職務代理者の選任について
3. 平成25年度収支補正予算について
4. 平成26年度事業計画及び収支予算について
5. 各種規程の一部改正について

評議員会の開催

- ・第1回 平成25年5月30日(木) 午後2時～3時30分 市総合会館8階第4会議室
議案 1. 理事の一部変更について
2. 平成24年度事業報告及び収支決算報告について
3. 平成24年度監査結果報告について

- ・第2回 平成26年3月27日(木) 午後2時～3時30分 市総合会館8階第4会議室
議案 1. 理事及び評議員の一部変更について
2. 平成25年度収支補正予算について
3. 平成26年度事業計画及び収支予算について
4. 新たな積立金の創設について

監査の実施

平成25年5月20日(月) 午後2時～4時 市総合会館4階 会議室
平成24年度事業報告及び一般会計、特別会計の監査

平成25年度事業報告 総括

近年、少子・高齢化や核家族化の進行、厳しい経済情勢などを背景に新たな福祉課題が顕在化している。児童虐待や精神障害者の地域生活の支援、高齢者の権利擁護など、いくつもの複雑多岐に渡る課題があるが、多くの場合、従来の公的な福祉制度の枠組みだけでは十分に対応することが困難になっている。

このような状況の中で、フォーマルなサービスの充実はもちろん、社会福祉協議会の使命である地域福祉の推進を図ることが重要である。そのような状況下、本会は、安心して暮らし続けることができる福祉のまちづくりの実現に向け「第4次地域福祉活動計画」（平成23年度～27年度）に基づき各種事業を行った。

特徴的な取り組み

○地域福祉関連事業

・ボランティアセンター事業

四日市ボランティアキャンペーンでは、3月4日をボランティアの日とし、ボランティアキャンペーン期間中（3月4日～31日）に、イベントやはじめてのボランティア説明会を実施してボランティア啓発とボランティア人口の拡大を図り、540名の参加があった。

・地域後見サポート事業

成年後見に関する新規相談257件、具体的に支援を行った実人数は61件。法人後見として6件受任し支援を行った。

制度の狭間で支援の行き届かない対応困難事例に関する調査を行い、相談業務の新たな仕組みの創設に着手した。

・地域福祉権利擁護事業

三重県社会福祉協議会の委託を受けて、地域福祉権利擁護事業を実施した。福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かりなどの支援を行った。

平成20年以降、国が示す専門員一人当たりの利用者数の基準（35件）を大きく超えている。専門員4人体制での利用者数は262件で、内新規は104件（前年度対比19件増）。相談件数は5,093件。

○障害者福祉関連事業

・障害者福祉関連4施設(障害者福祉センター・共栄作業所・たんぼぼ・あさけワークス)は、指定管理の最終年度にあたり、サービス向上と経費削減に努め、事業に取り組んだ。今年度は次期指定管理の申請年度でもあり、特定団体の審査を受け、26年度から30年度までの5年間を指定管理者として引き続き、管理・運営することに決定した。（同様に中央老人福祉センター、母子福祉センターについても、指定管理者として管理運営していく）

○高齢者福祉関連事業

・地域支援事業（介護予防事業）

平成27年度の介護保険法改正に向けた取り組みを行い、全65歳以上を対象とした一次予防事業「よっかいち・はつらつ健康塾！」を在宅介護支援センター・健康ボランティアと協働し開催した。7地区で42回の開催、838名の参加があった。またアンケート調査によるハイリスク者を対象とする二次予防事業を開催し、運動機能向上・栄養改善・口腔機能向上、閉じこもり・うつ・認知症予防支援を内容とした講座を開催。7地区で126回開催、延べ798名の参加があり、また訪問による支援を実施した。訪問回数24回、延べ訪問人数24人。

平成25年度事業報告の詳細は、以下のとおりである。

1. 市民啓発事業

市社協の事業の紹介や、市民にとって必要な福祉情報等をわかりやすく提供するため、広報紙を発行するとともに、社会福祉大会を開催し、市民の福祉意識の向上に努めた。また、ホームページを随時更新し、タイムリーな情報提供に努めた。

(1) 社協だより「かけはし」の発行

市社協事業の紹介及び報告、福祉情報の提供など市社協活動や福祉理解の促進、福祉啓発を目的として発行した。発行回数は年5回、各号約135,000部を市内全戸のほか、関係機関に配布した。同時に、希望される視覚障害者に、点訳かけはし(1回18部)、録音かけはし(1回25本)を発行した。

発行日	内 容
7月5日(金) 第121号	[表紙:おもちゃ図書館まつりの案内] ・平成25年度予算、及び平成24年度決算の報告 ・会費のお礼 ・中央老人福祉センターの案内 ・母子福祉センターパソコン講座の案内 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・ふるさとふくしま帰還支援事業(地元紙提供事業)について ・障害者福祉センターだよりWITH(失語症会話パートナーとの交流) ・視覚障害者福祉センターからの案内
9月5日(木) 第122号	[表紙:四日市市社会福祉大会の案内] ・赤い羽根共同募金 平成24年度のお礼と報告 ・たんぼぼ「フラダンス交流会」報告 ・中央老人福祉センターの案内 ・四日市市社会福祉協議会正規職員の募集 ・「有機野菜でつなげる輪」ボランティアセンターからの報告 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・無料成年後見相談会のお知らせ ・障害者福祉センターだよりWITH(出前講座の案内)
11月5日(火) 第123号	[表紙:平成25年度 赤い羽根共同募金のお祝い] ・四日市市社会福祉大会の案内 ・ボランティアのつどい報告 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・小地域福祉活動のホームページ紹介 ・中央老人福祉センターの案内 ・「母子福祉センター・母子寡婦福祉会作品展」のお礼 ・障害者福祉センターだよりWITH(第32回四日市市障害者大会の案内)
1月10日(金) 第124号	[表紙:四日市市社会福祉大会開催の報告] ・ボランティアキャンペーンのお知らせ ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・ふれあいギャラリー(喫茶ふれあい)作品展示の募集 ・たんぼぼ お茶会開催の報告 ・母子福祉センター、中央老人福祉センターの案内 ・市社協嘱託職員募集 ・「福祉・介護の就職フェア」開催 ・障害者福祉センターだよりWITH(障害者デイサービス利用者募集)
3月5日(水) 第125号	[表紙:赤い羽根共同募金運動お礼] ・平成25年度赤い羽根共同募金運動のお礼

	<ul style="list-style-type: none"> ・「さをり作品店きょうえい」開催の報告 ・はじめてのボランティア説明会の案内 ・「よっかいち福祉の店」即売会のお礼 ・中央老人福祉センターの案内 ・ボランティアキャンペーンのお知らせ ・四日市市社会福祉協議会 福祉提案箱のお知らせ ・障害者福祉センターだよりWITH (要約筆記について)
--	--

(2) 四日市市社会福祉大会の開催

永年にわたり、社会福祉活動に功績のあった個人及び団体を表彰するとともに、講演をとおして広く市民に福祉について考える場を提供し、福祉意識の高揚を図った。

- ・日 時 平成25年11月11日(月) 午後1時30分～4時30分
- ・場 所 四日市市文化会館 第1ホール
- ・参加者 約1,000名
- ・福祉功労者表彰 38名12団体
 - ・四日市市長表彰 2名
 - ・四日市市長特別 2名・3団体
 - ・四日市市社会福祉協議会会長表彰 19名・5団体
 - ・四日市市社会福祉協議会会長感謝 15名
 - ・三重県共同募金会四日市市共同募金委員会会長表彰 4団体
- ・講 演 幸せに老いるには ～老年医学の立場から～
- ・講 師 四日市市社会福祉協議会 会長 伊藤 八峯

(3) ホームページの更新

市社協の組織や事業とともに、職員募集情報や各種講座案内等をよりタイムリーに提供できるよう努めた。アクセス件数は170,556件で、前年度と比べ24,770件増加し、市民等の福祉に関する関心の高さが伺えた。

【市民啓発事業 まとめ】

社協だより「かけはし」では、本年度より全5回フルカラーで作成し、市民にとってより読みやすいものとした。記事を見て、社会福祉大会に参加した、ボランティアの説明会に参加したなど、市民の福祉啓発や市社協のPRに成果がみられた。

「四日市市社会福祉大会」では表彰及び講演で、参加者アンケートからは、日々の福祉活動に尽力している人のことを知ることができよかった、自分の生き方の励みになった等の声をいただいた。また、参加者の皆さんがより幸せな人生を過ごしていただくために、大変好評であった伊藤会長の講演会のDVDを作成した。

ホームページの更新では、市社協や事業内容などについて、タイムリーでより分かりやすい内容に努めた。

福祉を取り巻くさまざまな環境の変化に伴い、家族構成や生活様式など市民の暮らしも大きく変化してきていることから、福祉課題もより身近なものとなり、市民の社会福祉に対する関心も高まってきている。

今後も引き続き、市民にとって必要な福祉の情報をわかりやすく提供し、福祉啓発に努めていく。

2. 福祉ボランティアのまちづくり事業

ボランティアセンターでは、市民相互の助け合いによる福祉のまちづくりを目的として、市民がボランティア活動に参加するために必要な啓発活動、学習や活動の場、各種ボランティアに関する最新情報を提供するとともに、ボランティアグループや個人ボランティアへの活動支援などに取り組んだ。

(1) 相談援助業務

① ボランティアコーディネート業務

ボランティアを必要としている人とボランティア活動を希望している人や活動中の人を実際の

活動につなげることを目的に行った。

コーディネート実績		
依頼件数	260件	
派遣件数	223件	
派遣人数	487名	
派遣団体数	32団体	
派遣中止	主催者理由	13件
	V活動者理由	5件
	希望者なし	15件

②相談業務

ボランティア活動に関する相談や手続き、問い合わせ等に対応した。※Vはボランティアの略

	V登録 V保険	Vが したい	Vを 求む	情報 提供	活動 支援	連絡 調整	部屋 予約	その他	合計
4月	38	12	6	15	5	15	3	16	110
5月	24	11	17	17	9	22	4	25	129
6月	19	18	10	12	4	14	2	25	104
7月	20	26	9	14	2	22	5	15	113
8月	24	17	14	6	8	10	8	30	117
9月	11	9	6	7	1	10	3	16	63
10月	26	14	15	2	6	7	7	18	95
11月	24	4	9	10	4	11	17	17	96
12月	18	13	5	7	6	9	12	13	83
1月	1	7	5	5	2	9	18	16	63
2月	7	12	4	4	3	8	14	10	62
3月	39	14	5	7	2	9	6	8	90
合計	251	157	105	106	52	146	99	209	1,125

(2) 情報収集と提供

①ボランティアニュース「ボランティアのたまご」の発行（月1回）

ボランティアに関する事業や情報を掲載し、毎月20日に発行した（発行部数約1,500部）。
ボランティア団体や個人ボランティア、行政、一部企業等の各関係機関への送付や地域の掲示板への貼付などにより、ボランティア活動の周知に努めた。

②ボランティア団体会員募集一覧冊子の作成

ボランティアセンターに登録している団体のうち、会員募集をしている団体を活動分野別に冊子としてまとめ、ボランティア希望者へ情報提供を行った。

③ホームページの更新

ホームページ上に、ボランティアセンター事業やボランティア募集などボランティアに関する情報を掲載し、ボランティア活動の周知に努めた。

④フェイスブックの更新

若い世代を中心に普及しているフェイスブックの拡散性、即時性、滞留性の機能を活かして情報発信を行うことで、ボランティア活動やボランティアセンターを周知した。（平成25年度は四日市ボランティアキャンペーンにて活用）

(3) ボランティアのきっかけづくり事業

①はじめてのボランティア説明会の開催

これからボランティア活動を始めたいという人を対象に、ボランティア活動に関する基礎知識の習得と実際の活動へのつながりを目的に開催した。開催日時は、より多くの人に参加してもらえるように、毎月3回、平日午前、平日夜間、休日午後とした。

学校関係では、ユマニテク医療福祉大学校(7月32名)・第一高等学院高校(9月21名)の2校から依頼があり、出前講座を実施した。

月	開催日	参加者数	説明会内容
4月	9日(火) 18日(木) 20日(土)	13名	<全体説明> ①社協&ボランティアセンターの概要説明 ②ボランティアについての学習 ③市内ボランティア活動状況 ④ボランティア活動保険の説明 ⑤ボランティア募集状況 他 <個人対応> ①1対1で活動希望の聞き取り ②活動先との調整 ③見学への同行 ④活動中のフォロー
5月	7日(火) 16日(木) 25日(土)	6名	
6月	4日(火) 13日(木) 22日(土)	10名	
7月	2日(水) 11日(木) 12日(金) 20日(木)	50名	
8月	6日(火) 22日(木) 24日(土)	10名	
9月	3日(火) 11日(水) 12日(木) 21日(土)	34名	
10月	1日(水) 17日(木) 19日(土)	15名	
11月	5日(火) 14日(木) 30日(土)	10名	
12月	3日(火) 14日(木) 19日(土)	12名	
1月	7日(火) 16日(木) 25日(土)	7名	
2月	4日(火) 13日(木) 22日(土)	12名	
3月	6日(木) 13日(木) 14日(金) 17日(月) 31日(月)	9名	
年間	40日(内、出前講座2日開催)	188名	

②夏休み子どもボランティア体験の開催

市内の小学生(5~6年生)を対象に、ボランティア活動者との出会いや、ボランティア体験を通して、ボランティア活動に興味・関心をもってもらうことを目的に開催した。

開催日	活動内容	参加数
8月21日(水)	送ろう、みんなの気持ち！四日市からタイへ！ ①タイの子どもたちの現状を学ぶ 講師：JICA シニアボランティア 吉田 佳子 氏 ②ボランティア活動者のお話&映像 講師：ダルニー奨学金を支援する会 竹野 悟史 氏 ③ボランティア体験 ・絵本の翻訳シール貼り ・折り紙づくり ・カレンダーづくり	8名

③福祉教育推進事業・福祉教育への支援

(ア) 地域福祉教育推進(講師派遣)事業[14校]

子どもたちが地域の中で生活全般にかかわる「福祉」について学び、自分にできることを考えるきっかけづくりとなる福祉教育を推進するため、日常的に子どもたちと関わり、福祉教育を実践されている学校と協議をしながら、子どもたちにあった学習プログラムを作成し、それに講師の紹介や調整、依頼やその経費については市社協が担う事業として実施した。

学校名及び学年	内容
三重北小学校4年	講師派遣：市内在住の聴覚障害者
橋北小学校4年	講師派遣：市内在住の視覚障害者
八郷小学校4年	講師派遣：市内在住の視覚障害者
5年	講師派遣：市内在住の身体障害者(車椅子利用者)
6年	機関調整：市内高齢者施設
中央小学校4年	講師派遣：市内在住の視覚障害者
大谷台小学校4年	講師派遣：市内在住の視覚障害者
常磐小学校6年	講師派遣：社会福祉協議会職員(主任児童委員)

下野小学校 3年 4年	講師派遣：社会福祉協議会職員 講師派遣：市内在住の視覚障害者
河原田小学校 3年 4年	講師派遣：市内で活動するボランティアグループ 講師派遣：市内在住の視覚障害者
保々小学校 3年	講師派遣：社会福祉協議会職員
八郷西小学校 6年	講師派遣：市内で活動するボランティアグループ、 市内在住の視覚障害者
羽津北小学校 4年	講師派遣：市内在住の視覚障害者
桜台小学校 4年	講師派遣：市内在住の視覚障害者
保々中学校 1年	講師派遣：市内在住の身体障害者（車椅子利用者）
山手中学校 2年	社会福祉協議会事業の説明

(イ) 福祉教育への支援〔4校〕

地域福祉教育推進事業実施校以外の小学校・中学校・高等学校で、福祉教育に取り組んでいる学校の相談に応じ、取り組み内容についての情報提供や福祉用具の貸出及び講師の紹介、職員派遣を行った。

- ※プログラムの相談…浜田小学校、県小学校、大矢知興譲小学校
- ※点字トランプ等の貸し出し…富洲原中学校

④教職員福祉教育講座の開催

福祉教育を推進される教員を対象に、福祉教育を進める上でのヒントや参考になる講師を紹介する機会をつくり、教員との連携体制を図った。

(ア) 夏季教職員福祉教育研修会

小中学校の教職員を対象に、市教育支援課教職員研修講座の共催講座として開催。

開催日	開催場所	開催内容	参加数
8月9日(金)	四日市市総合会館	講演「子ども達に伝えたいこと・・・」 講師：大阪教育大学教育学部教養学科 准教授 新崎 国広 氏 意見交換「教科書から福祉教育のテーマをみつめよう！」 車いす利用者・視覚障害者を招いて	3名

(イ) 教職員向け福祉情報紙の発行

小学校4年生の教諭向けに、教科書（国語の単元）を題材にしながら福祉学習をするプログラムを紹介することを目的に、情報紙を作成し、担当教諭に配布した。

(4) 人材育成事業

①子どもと障害児・者のサポート講座の開催

ボランティアセンターに寄せられるボランティアニーズのうち、子どもと障害のある人たちへのサポート依頼件数が増加している。今後、ますます増加するこれらのニーズに対して、対応していただくボランティアの活動支援や人材育成を図るとともに安心して活動できる体制づくりを目的に開催した。

開催日	開催場所	開催内容	出席者
1月26日 (日)	四日市市総合会館	講演『ボランティアの必要性』について ・聖母の家学園 山下 達也 氏 ・エンゼル会 三泗支部 小川 淳三 氏 講演『子どもと障害児・者との関わり方』について ・四日市市教育委員会 教育支援課 山田 賢治 氏 座談会	23名

②ボランティアリーダー研修会の開催

ボランティア活動が多様化している状況下、ボランティア団体のリーダーを対象に、自分たちの活動の効果や意義を可視化し、いかに発信していくことがこれからの活動に必要なかを考えていくことを目的に、ワークショップを開催した。

開催日	開催場所	開催内容	参加者数
12月23日 (月・祝)	四日市市 文化会館 第3ホール	(テーマ) 『リーダーの楽しみ方！～めっちゃ おもしろいやんリーダーって！』 (講師) 大阪ボランティア協会 常務理事 早瀬 昇 氏 (内容) ①講 演 ②グループワーク グループ運営で思い当たるエピソード、運営上の悩み、困ったことの克服事例 ③質疑応答	35 団体 58 名

(5) 活動支援（助成）事業

①外出援助サービス保険料助成事業の実施

外出困難な要援護者のニーズ対応と外出機会の拡大を目的として、医療機関などへの外出援助サービスを行っているボランティア団体等に対して、送迎サービス補償・ボランティア活動保険の各保険料の半額助成を行った。

- 〔助成団体〕 1. 桜ボランティア協会〔桜地区〕
2. ミニデイサービス「ともだちの和」〔桜地区〕
3. 山上いきいきサロン〔桜地区〕
4. おたまじゃくしの会〔八郷地区〕

②ボランティア活動保険の加入促進

ボランティア活動中の事故に備えて、ボランティア活動保険の掛金の一部補助（一律一人100円）を行い、加入促進を図った。

ボランティア活動保険加入者5,097名（平成26年3月31日現在）

③全国ボランティアフェスティバル高知の参加支援

ボランティア活動への関心が高まっている中、全国規模のボランティア大会への参加を通して団体活動の活性化を図ることを目的として、四日市市ボランティアキャンペーン運営委員会運営委員を対象に参加を募り、フェスティバルに参加する費用の一部（交通費・参加登録費）を助成した。

開催日	開催会場	参加団体	開催内容
9月29日(土) ～30日(日)	(高知県) 高知県民ホール	運営委員3名	・テーマトーク ・テーマアクト ・分科会 ・フィールドワーク ・ふれあい広場

(6) 協働事業

①四日市ボランティアキャンペーンの開催

ボランティア活動の啓発及びボランティア人口「ボラ友」の拡大を目的に、3月4日「**㊦**んなで**㊩**よにボランティア」（キャッチフレーズ）を四日市市のボランティアの日とし、また3月4日～31日までを四日市ボランティアキャンペーン期間として、下記イベントを開催した。企業協賛

16社、その他の協賛団体7団体の協力を得た。

(運営委員会形式で開催)

開催日	開催場所	参加数	開催内容
3月4日(火)	①四日市駅前東口 広場 ②ふれあいモール	32名	PRイベント ・ティッシュ、チラシ配り ・ゆるキャラと一緒に写真を撮ろう!
3月4日(火) ～14日(金)	四日市市総合会館	6名	はじめてのボランティア説明会
3月15日(土)	四日市市民公園	502名	アルミ缶みんなで作る 「でっかいニッポン」2014 ・アルミ缶回収(15,000缶) ・日本地図の作成(10,000缶) ・障害者施設(作業所来夢、サクラノ園、聖母の家、手作り工房あゆみ)にアルミ缶の寄贈 ・ボラ友飴の作成

名称	回数	参加者数	内容
運営委員会	9回	ボランティア団体 (4団体:4名) 学校関係(2校:3名) 個人ボランティア(7名)	①四日市ボランティアキャンペーンの 企画内容に関する事 ②前日及び当日の運営協力などに関する 事 ③事前リハーサルの開催
事前説明会	2回	(当日参加) ボランティア団体・個人 ボランティア・企業 50名	(日時)平成26年2月25日(火) ・13:30～ ・18:30～の2回 (内容) ・PRイベントについて(3/4) ・ボランティア啓発イベント(3/15) 内容説明、役割分担など

②ボランティアのつどいの開催

ボランティアセンター登録団体や個人ボランティアが一堂に会することによって、情報交換や交流を行い、団体同士または、団体や個人とボランティアセンターのつながりを強化することを目的に開催した。(実行委員会形式で開催)

開催日	開催場所	開催内容	参加者数
9月14日(土)	四日市市 文化会館 展示棟	(内容)①オープニング(挨拶、アイスブレイク) ②学び・交流企画 グループ対抗!3択クイズ ③活動紹介 ④語り企画 『私の10年後～夢を語ろう!～』 ⑤クロージング 表彰、集合写真等	88名 (団体) 20団体 66名 (個人)22名

〔実行委員会の開催〕

回数	人数	参加者数	内容
4回	13名	ボランティア団体 (3団体:3名) 学校関係(2校:3名) 個人ボランティア(7名)	①企画内容に関する事 ②当日の運営等に関する事

③学生〔高校生・大学生〕ボランティア連携事業

現在、つながりのある学校とのさらなる顔のみえる関係づくりを目的に、イベントや活動等を通して連携強化に努めた。

学 校 名	活 動 内 容
四日市大学	①四日市大学・四日市看護医療大学合同文化祭（よんよん祭り）でのボラセンとの合同出展（出展内容：展示&思いやりリレー）
四日市看護医療大学	②四日市ボランティアキャンペーンの運営委員として運営委員会への参画
ユマニテク医療福祉大学校	①はじめてのボランティア説明会の出前講座の開催 ②各種ボランティア活動への参加
四日市United Children（メリノール女子学院生中心）	国際交流パーティ（平成26年3月開催）の企画&実施に向けての協力および活動支援
川越高校ボランティア部 海星高校ボランティア部	四日市ボランティアキャンペーンへの参加

④コーディネートを考える会議の開催（ボランティアセンター運営に関する会議）

コーディネート業務の向上を図ることや新たなしくみづくりを構築していくことを目的とし、関係機関（ボランティアの送り出し機関、ボランティアの受け入れ機関、中間支援組織、学識経験者など）が集まり、よりよいコーディネートに向けて情報の共有や意見交換を行った。（平成27年度実施予定のボランティアセンター運営委員会コーディネート部会の前身と位置づける。）

開催日	参 加 機 関	開 催 内 容
3月12日(水)	①サンディスク(株) ②ユマニテク医療福祉大学校 ③作業所 来夢 ④よっかいち諧朋苑 ⑤障害者相談支援センター ソシオ ⑥四日市ふるさとファーム ⑦三重県ボランティアセンター ⑧日本福祉大学 教授 村上 徹也 氏	■講演『コーディネートとは？ ～なぜコーディネーターの存在が必要なのか？～』 講師：村上 徹也 氏 ■グループワーク ・各関係機関のボランティアに関する課題について ・情報共有

(7) 防災・災害支援事業

①東日本大震災等被災地支援団体情報交換会

東日本大震災(3.11)を機に被災地支援をしている団体が集まる「チーム四日市」の活動を支援した。

・情報交換会…被災地支援をしている団体がそれぞれの活動について、情報交換・情報共有を行った。

開催日：平成25年6月27日(木)、10月24日(木)、平成26年2月4日(火)

・ブログの更新…参加団体の活動報告を随時更新した。

②災害ボランティアセンター推進協力員研修会

災害時に地域と災害ボランティアセンターの橋渡し役となっただく「災害ボランティアセンター推進協力員」を養成した。

回	月 日	勉強会の内容	参加人数
1	6月27日(木)	意見交換：四日市市地域防災計画について意見交換	35人
2	1月31日(金)	講義：復興までの間、介護や支援が必要な人をどうサポートするか 講師：NPO法人ローカル・アカデミー 事務局長 高田 克彦 氏	51人

【福祉ボランティアのまちづくり事業 まとめ】

平成26年3月31日現在のボランティアセンター団体登録数は、206団体8,120名、また個人登録数は、205名であった。福祉分野を含め、活動分野は多岐にわたっている。

事業としては、今年度、四日市ボランティアフェスティバルを四日市ボランティアキャンペーンと名称を改め、単発のイベントではなく、ボランティアキャンペーン期間（3月4日～31日）を設けて、ボランティアの啓発とボランティア人口の拡大に努めた。開催内容、内容の周知や広報の仕方に課題は残ったものの、ボランティアスタッフ134名、市民のみなさん406名の参加があった。また、イベントの企画段階から企業などの協力も得られ、連携強化を図ることができた。今後も継続して実施していく中で課題解決を図りながら、さらに充実したものにしていきたい。

近年、ボランティア活動への関心が高まる中、ボランティアセンターの基盤強化及びより充実した業務を実施していくことを目的に、「四日市市ボランティアセンター設置要綱」「ボランティア登録基準」を作成した。これによって、ボランティアセンター設置目的や役割、事業内容等を明確化、ボランティアセンター職員の職務に対する自覚や責任の明確化、ボランティアセンター職員の異動等に関係なく事業や方向性の一貫性化等が図れた。

事業実施の他、ボランティアセンターの重要な業務のひとつであるコーディネートのより充実を図るために、コーディネートに関わる関係機関が集まってコーディネートを考える会議を開催し、ボランティアに関する課題の抽出や情報交換・情報共有を行った。今年度初めての試みであったが、いろいろな関係機関のボランティアに関する声や想いを協議・共有する場として、次年度以降も継続して開催していきたい。

3. ふれあいのまちづくり事業

地区社会福祉協議会（地区社協）への具体的な支援として、ブロック別会長会議等を新設するとともに地域福祉活動メニュー事業での地域住民の意識高揚、ボランティアの発掘などをとおして、住民自らの福祉活動が展開されるよう支援した。また、福祉協力員等が行う、助け合い・見守り・ふれあいなどの活動が円滑に推進されるよう支援した。

さらに、各地区民生委員児童委員協議会へ参画し、地域の福祉課題の解決に向けた活動を支援した。

総合相談事業では、総合相談室における相談活動を重視し、「三泗地域権利擁護センター」をはじめとする関係機関との連携を密に取りながら問題解決や福祉ニーズの把握に努めた。

(1) 地区社会福祉協議会支援

地域において、地域福祉活動を推進していく基盤となる地区社協との連携強化に努めた。

①地区社協への運営費等の助成

- (ア) 地区社協組織活動補助金…1地区 40,000円。支部（校区）社協を組織化している地区については1支部（校区）社協につき8,000円を加算。
- (イ) 地区社協事業費補助金…地区の世帯数による
- (ウ) 地域福祉活動メニュー事業補助金…実績方式
- (エ) 共同募金交付金…目標額の21%と超過額の90%

②地区社協指導者研修会等の実施

- (ア) 地区社協連絡協議会 全体会議
平成25年6月19日（水） 総合会館 8階視聴覚室
内容 1. 会長・副会長の選任について
2. 市社協評議員の選出について
3. 指導者研修会の開催について
4. 市社協 補助金について
5. 情報提供・出前講座の案内
 - 「四社協福祉ゼミナール」について
 - 「市社協 出前講座」について
 - 「ボランティア活動保険」について
- (イ) 地区社協リーダー研修会／補助金説明会
平成26年2月21日（金） 総合会館 8階視聴覚室

- 内容 1. 講演 「お茶っこサロン活動を通して見える被災地」
講師 真田山長谷寺 副住職 宮下 俊哉 氏
2. 平成26年度補助金について
○介護・高齢福祉課より
○四日市市社会福祉協議会より
・地区社協補助金について
・ふれあいいいききサロン補助金の変更について

(ウ) 地区社協ブロック別 会長会議

平成25年8月21日(水): 中部・西部、8月22日(木) 西南部・南部、8月29日(木) 北部・東部

- 内容 1. 地区社協ブロックの再編について
2. ふれあいいいききサロン補助金の変更について
3. ホームページの作成について
4. 「全国・小地域福祉活動サミット in みえ」への参加について
5. 情報交換

平成26年3月18日(火): 北部、3月19日(水) 南部、3月25日(火) 中部

- 内容 1. ふれあいいいききサロン補助金の変更について
2. ブロック代表について
3. 意見交換

(エ) 小地域福祉活動ホームページの開設

市社協ホームページに「小地域活動応援サイト」開設

(オ) 四日市市住民参加型在宅福祉サービス 情報交換会

平成26年3月24日(月) 四日市市総合会館 7階第3研修室

参加団体 : 桜ボランティア協会、下野・生き域ネット、ライフサポート三重西
アドバイザー : 名古屋経営短期大学健康学科 准教授 三好 禎之氏

- 内容 1. 各団体活動概要説明
2. 情報交換
3. 情報提供…地域支援事業について／市介護・高齢福祉課

③福祉協力員等活動費補助事業の実施

地域福祉活動の推進者である福祉協力員等の活動のより一層の促進を図るため、運営費 20,000 円、活動費として福祉協力員等 1 名につき年間 3,000 円 (上限 80,000 円) を補助し、活動を支援した。

・実施地区(16地区)

共同、中央、港、橋北、海蔵、羽津、富田、下野、三重、桜、川島、神前、日永、塩浜、内部、大矢知

④地域福祉活動メニュー事業の実施

平成8年度から地区社協に対する具体的な支援として「地域福祉活動メニュー事業」を開始した。平成10年度からは、対象を小学校区に組織化されている地区社協に拡大し、平成12年度からは、高齢者などの介護予防や地域での交流・出会い、憩いの場としての「ふれあいいいききサロン」活動を進めていくための運営費や、新規に活動を立ち上げる資金を支援するメニューを加えた。また各地区社協の福祉活動状況や地域特性を踏まえて、それぞれの地域課題を明らかにし、地区社協の取り組みに際し、事業の企画段階から市社協職員が参画して、支援を行ってきた。

(メニュー内容)

- (ア) 学習・啓発事業
(イ) ふれあいいいききサロン事業
(ウ) 交流事業

【地域福祉活動メニュー事業 実施講座】

●事業数 22地区（支部を含む） 52メニュー

地区名	区 分	事 業 名	内 容 ・ 演 題	参加者
共 同	学習・啓発事業	視察研修	早期認知症研究所であり、重度になる前に種々の症状がある	35名
		福祉勉強会	在宅医療ってなに？～四日市市の在宅医療の取り組みについて～	38名
	交流事業	ひとり暮らしの集い	会食・茶話会、ユートピア在介・竹尾さんの講話とリズムメイトのよる演奏	100名
中 央	交流事業	ひとり暮らしの集い	五尺坊申志さんの落語と港在介松岡さんのお話と体操	65名
		三世代交流行事 中央・同和もちつき大会	世代間交流	250名
港	交流事業	ひとり暮らしのつどい	モンゴルの若い音楽グループと共に楽しみ会と昼食会	80名
		クリスマスおたのしみ会	会食・茶話会	70名
浜 田	交流事業	一人暮らし高齢者の集い	医療についての講演会	110名
		餅つき大会	世代間交流	400名
同 和	交流事業	ひとり暮らしの集い	会食・茶話会、リズムメイトの皆さんによる歌と演奏、港在宅介護センター彦惣さんのお話	40名
		三世代交流行事 中央・同和もちつき大会	世代間交流	250名
海 蔵	交流事業	海蔵小学校2年生との交流会	世代間交流	150名
羽 津	交流事業	ひとり暮らしの集い	懇談会	118名
富洲原	交流事業	第32回富洲原地区ふれあいグランドゴルフ大会（春）	グランドゴルフを通じた世代間交流	98名
		ふるさと探検隊 2013 富洲原地区ふれあいウォークラリー大会	ウォークラリーを通じた世代間交流	200名
		第33回富洲原地区ふれあいグランドゴルフ大会（秋）	グランドゴルフを通じた世代間交流	115名
下 野	学習・啓発事業	福祉講演会	元気が出る！「日々を健康に生き抜く」講座 第2回 不思議な関係「こころと体」 講師：木村 光政氏（四日市社会保険病院 副院長）	74名
		福祉講演会	「お元気ですか？楽しく食べて健康に」 講師：三輪 陽子氏（管理栄養士）	68名
		福祉講演会	「くすりと上手に付き合おう～薬立つお話～」 講師：松田 浩明氏（四日市社会保険病院薬剤部部長）	100名

県	交流事業	ふれあい文化祭	作品展示、サークル発表会、郷土資料館公開、講習会、模擬店、グラウンドゴルフ大会	700名
		県地区綱引き選手権大会	世代間交流	300名
桜	学習・啓発事業	史跡めぐり	桜地区の東部を訪ねて	71名
		バードウォッチング	野鳥の種類・生態・観察ポイントについて 講師：日本野鳥の会三重支部 尾畑氏 川瀬氏	50名
		健康講座	「高齢者が心身共に健康で暮らすには」 講師：山脇 崇氏	78名
	交流事業	健康講座「リフレッシュ健康体操」	高齢者の健康づくり、介護予防の活動	57名
		さくらふれあいまつり	福祉施設との交流会、世代間交流	132名
川島	交流事業	川島町北部第一自治会親睦会	世代間交流、グラウンドゴルフと昼食会	80名
		親睦もちつき大会	福祉施設との交流会、1人暮らし高齢者の交流、地区障害者の交流	90名
神前	学習・啓発事業	子育て広場	「子育て広場 絵本読み聞かせ」 講師：三浦 伸也氏（朗天狗）	39名
常磐	学習・啓発事業	手話についての講演	手話に係わる皆さんへのメッセージ 講師：蒔田 勝義	12名
	交流事業	聴覚障害者との交流事業	地区在住のろう者との共同作業（おもちつき）	16名
四郷 (旧四郷)	交流事業	共栄作業所との交流会	福祉施設との交流	90名
四郷 (高花平)	交流事業	保育園児と高齢者のふれあい会	世代間交流	25名
		幼稚園児と高齢者の集いの会	世代間交流	35名
		保育園児と高齢者のふれあい会	世代間交流	24名
		幼稚園児と高齢者の焼きいも大会	世代間交流	40名
		保育園児と高齢者のふれあい会	世代間交流	12名
		幼稚園児・保育園児・小学1年生と高齢者の合同ふれあい音楽会	世代間交流	159名
日永	学習・啓発事業	環境に関する事業	「尾鷲のひのき」をつかった「はし作り」を通して環境問題を考える	25名
		ひとり暮らし高齢者健康教室	介護予防について 講師：健康づくり課 鎌田氏	148名
		福祉施設見学について	きらら学園施設見学並質疑応答	21名
	交流事業	ひとり暮らし高齢者のつどい	福祉施設との交流会	500名
塩浜	交流事業	ナイターGG大会	世代間交流	70名
		イキイキふれあいGG大会	世代間交流	107名
河原田	学習・啓発事業	箸づくり教室	若狭堆朱箸の歴史と作業工程の講習、自分自身で作品を完成させる	31名

		和菓子づくり	二種類の和菓子づくりの講習、抹茶をたてる 講師：前田 栄子氏	17人
	交流事業	障害者ふれあいの集い	東山動植物園での交流会	16名
		オリエンテーリング	地区内の名所・旧跡を歩きながら 判断力・行動力・連帯感を深める	131名
		梅まつりウォーキング大会	世代間交流	60名
楠	交流事業	ふれあい農園	世代間交流	20名
水 沢	交流事業	春のワクワクふれあいまつり	世代間交流	145名
内 部	交流事業	中堀町あったか交流会	世代間交流	79名

合計 5,741名

●ふれあいいいききサロン開催実績

実施地区 32地区（支部を含む） 244サロン

地区名	回数	参加者数	サロン名
共 同	147回	1968名	いろは会、諏訪栄いきいきサロン、ふれあいいいききサロン、サロン時計台、中部スマイルきょうしつ
中 央	16回	424名	中央地区ふれあいサロン、新町おしゃべりサロン、ほほえみクラブ
港	26回	476名	歩こう会、港地区いきいきサロン、笑和ホネホネクラブ
浜田	23回	209名	笑話会、ふれあいおはなし会
同和	56回	946名	あんずの会、同和地区いきいきサロン
橋 北	10回	815名	にこにこサロン日曜給食サービス
海 蔵	272回	2304名	茶のみ友の会、踊り愛好会、お達者クラブ、カラオケ愛好会、書道サークル、茶道サークル、グランドゴルフ、音楽療法の会
羽 津	25回	309名	ふれあいサロン「仲良し会」、エミ(笑み)の会
富 田	408回	7736名	ボランティア委員会、富田宅老所 ひだまり、いこいのサロン、すみれサロン、うたおう会、なかよしクラブ、パソコン教室、富田グラウンド愛好会、東富田グラウンドクラブ
大矢知	313回	4346名	松寺寿会、十志町ものづくりの会、ゲートボール愛好者の集い、松寺ふれあいデー、蒔田グラウンドゴルフ同好会、蒔田なかよしサロン、なごみクラブ、知りたい輪、松寺ふれあい手芸クラブ、十志町ものづくりの会
八 郷	263回	4545名	あじさい広場、蒨のとう、平津あゆみの会、きらく、すくすく Kid's、さるびあ会、ゲー・チョコキ・パー、虹の会
八 郷 (西)	574回	7431名	八郷西子ども文庫、ふれあい映画会、すみれ会、ふれあいランチタイム、たんぼぼの会、八郷西もみじクラブ、アスパラ、おたまじゃくしの会、暁風会、ひまわり会、八郷西陶芸クラブ、トマリ会、陸会
下 野	231回	2289名	下野・障害(児)あゆみの会「ふれあい」、山城町 詩吟クラブ、ワイワイクラブ勉強会、ボランティアグループ「梨の実会」、コーラス「和み」、あさけが丘1丁目卓球、グランマ、卓球本間グループ
三 重 (中央)	373回	5030名	川向グラウンドゴルフクラブ、山之平グラウンドゴルフ同好会、生桑町グラウンドゴルフクラブ、東坂部町 グラウンドゴルフ愛好会、寺小屋、生桑町スポーツクラブ、生桑町ふれあいサロン
三 重 (西)	497回	7338名	太九会、三重西ふれあいサロン スマイル、美里パソコンクラブ、結、金曜クラブ 料理教室、三重三丁目友好会、三重西ラジオ体操同好会、エミ(笑み)の会
三 重	670回	9175名	介護予防の会「さえずり会」、坂部が丘五丁目フリークラブ、山之一色町

(北)			グラウンドゴルフ 愛好会、大沢台さつき会
大谷台	534 回	6928 名	ふれあいいきいきサロン小杉新町、いきいきサロン福寿会、みゆきヶ丘一丁目いきいきサロン、いきいきサロン木曜会みゆき 2、いきいきサロン大谷台、大谷台 2 丁目いきいきサロン長寿会、南垂坂町シニアクラブ (南垂会)、いきいきサロン小杉 1、いきいきサロン大空、いきいきサロンお達人者倶楽部、いきいきサロン・タルサカ、イキイキサロン小杉長寿会
県	999 回	13912 名	赤水町ふれあいいきいきサロン、上海老町五月会第 1 (大正琴)、いきいきサロン寿会、平尾町ふれあいいきいきサロンふるさと広場、ふれあいクラブ、栄いきいきサロン第 1 (ゲートボール)、栄いきいきサロン第 2 (グラウンドゴルフ)、栄いきいきサロン第 3 (手芸)、ハイツにこにこ会、スイトピー (大正琴)、あがたいきいきサロン (ゲートボール)、大沢いきいきサロンお達人者倶楽部、いきいき体操仲良会、平尾町いきいきサロン第 2 (グラウンドゴルフ)、グラウンドゴルフ愛好会、グラウンドゴルフ仲良し会、カラオケ仲良会、赤水町グラウンドゴルフ仲良会、北黒江グラウンドゴルフ愛好会
桜	154 回	2974 名	憩いの家、駅前憩いの家、山上いきいきサロン、桜花台ふれあいサロン、ボランティアグループわかば会、ミニデイサービスともだちの和、桜南ほかほかくらぶ、のびっこ、智積ふれあいイキイキサロン
川 島	237 回	3738 名	なんぶ塾、西部ふれあい会、川島映画劇場、川島福祉ふれあいいきいきサロン、ゆーらくサロン、けやき台カラオケ会、けやき台グラウンドゴルフ、三滝台卓球クラブ木曜会、三滝台サロン「ふれあい」、三滝台グラウンドゴルフ倶楽部
神 前	309 回	4415 名	菅原町ふれあい広場、寺方町一区 ふれあい広場、高角町ふれあい広場、曾井町ふれあい広場・笑話会、尾平町ふれあい広場、上名ヶ丘ふれあい広場、美里ヶ丘ふれあい広場
常 磐	353 回	4214 名	きらめきサロン、久保田ふれあいの会、西松本町 ふれあいサロン、青葉町生き生きサロン、いぐらふれあいの会、いきいきサロンほほえみの会、まつもとイキイキクラブ、青春映画サロン西伊倉、城東シニアクラブ
四 郷 (旧四郷)	210 回	3962 名	四郷ふれあいいきいきサロンやんばいやね、いきいきサロン悠友室山、いきいきサロン「きずな」、出雲の森
四 郷 (笹川)	476 回	6704 名	ふれあいサロンわかさ、桜の会、ごらくクラブ、おしゃべりサロン、18 までしこ会、いきいきサロン微笑、笹川ポプラの会
四 郷 (高花平)	632 回	8586 名	小林町 ほほえみ会、絵手紙教室、ミニ福祉教室、生活リハビリお達人者教室、3 中いこいっこ、5 中いこいっこ、昭和サロン、小林町ラジオ体操愛好会
小山田	179 回	2733 名	はればれクラブ、鹿間町元気になる会、和無田町撫子会、子育てひろば、小山町グラウンドゴルフ健康会、ひだまりハウス
水 沢	287 回	2974 名	茶の実の会らふらっとら、葉穂の会水沢、起勢の会、青葉会、笑顔の会、そば打ち同好会、水沢クプナ・フラ、水沢茶どころ吟詠会、茶っ都水沢、水沢子育てサロン、墨楽会、ツバキ会
日 永	569 回	15805 名	青空サロン、ミニデイサービス ふれあい会、えがお、元気火曜日会、猿法師ラジオ体操同好会、泊山南部たけクラブ、サロンきらら、アロハサークル、追分町つくし会、小柳町カラオケ同好会、陽だまり、グラウンドゴルフ新町クラブ、絵手紙教室、南日永ラジオ体操クラブ
塩 浜	423 回	5854 名	大井の川町カラオケ同好会、竹の子会 A、川合町なかよし会 A、七つ屋町自治会ふれあい広場福寿草 A、海山道町ふれあいサロン、川合町なかよし会 B、七つ屋町自治会ふれあい広場福寿草 B、いきいき町づくり活動、ひ

			だまり広場、小浜友愛会、竹の子会B、中里町グランドゴルフ若竹会、馳出町イキイキサロン、お達者クラブ磯津、大里町お達者クラブ、小浜町ふれあい
内 部	107回	1903名	東原町「いきいきサロン」、がらがらどんの会 森力山、ぽっかぽか笑話会、あったか交流サロン、サロン de 竈、北小松ふれあいいいきいきサロン高齢者及びチビッ子教室
河原田	48回	1144名	すくすくサロン、いきいきサロンあすなる会、いきいきサロンオレンジ、いきいきサロン 貝塚町、大治田 ふれあいサロン
楠	59回	1156名	栄町街角くらぶ、錦町・昭和町街角くらぶ、北本町街角くらぶ、南本町街角くらぶ、旭町街角くらぶ、幸町二区街角くらぶ、吉崎ふれあい街角くらぶ

(2) 地域福祉活動支援

①福祉コミュニティの推進

地区民生委員児童委員協議会への参画等をとおして、各地域の社会資源や福祉課題の整理を行った。

②先駆的事業の開発

- ・四日市市地域後見サポート事業の実施

市や福祉・司法関係機関との連携を図り、市民からの成年後見制度に関する相談や成年後見制度を必要とする人々の支援を行う事業を実施した。

内 容	件 数
新規相談件数	257件
支援実人数	61件
受任支援	6件（後見：6件、終了：3件）

- ・なるほど出前講座の開催

福祉に関する情報や制度についてわかりやすく情報発信するしくみとして、出前講座を開始した。

実施日	対象者・内容
6月6日(木)	笹川公団サロン 後見出前講座
6月28日(金)	清和苑 後見出前講座
7月22日(月)	垂坂山ブルーミングハウス 後見出前講座
10月5日(土)	川島地区社協 後見出前講座
10月30日(水)	小杉町 後見出前講座
11月18日(月)	笹川8丁目老人クラブ 後見出前講座
3月13日(木)	中堀町 後見出前講座

(3) 四日市市福祉教育大学

①四社協福祉ゼミナールの開催

福祉の考え方の基本視点を見つめなおす機会・福祉の最新情報や専門知識を学ぶ場として開講し、ふだんのくらしのしあわせについて考える市民（福市民）の養成を行った。今年度は福祉協力員の研修の機会も兼ね、興味のある講座のみの参加も可能な形で実施。全体で70名の参加があり、福市民として59名が登録した。

	内 容	参加数
第1回 9月12日(金)	開講式 「新たな福祉コミュニティづくり～“なぎさ”の福祉的意義について」	55名

	大阪ボランティア協会 岡本 栄一 氏	
第2回 10月10日(金)	「一緒に考えよう！地域福祉とは！地域福祉の推進のために私たちが今できること」 大阪教育大学 准教授 新崎 国広 氏	48名
第3回 11月15日(土)	「ボランティアの今を考える」 皇學館大学 教授 守本 友美 氏	46名
第4回 12月12日(金)	「活動事例から学ぶ～サロン、住み開きなどの居場所づくり活動を通じて」 大阪市立大学 竹村 安子 氏	46名
第5回 1月16日(金)	「生涯学習から市民福祉活動へ～ゼミナールでの学びを実践につなげよう」 ふれあいサロンわかさ 代表 青井 輝行 氏 ライフサポート三重西 事務局長 菅瀬 博文 氏	46名
第6回 2月13日(金)	福市民の集い 学びから、福市民へ ～福祉のまちづくりをめざして、私たちができること～ 大阪教育大学 准教授 新崎 国広 氏	47名

②地域福祉ゼミナールの開催

福祉協力員等が組織化されている16地区全てで、地域の福祉課題の共有と解決策を見出すことを目的に座談会を開催した。

③専門ゼミナールの開催（ふれあいいいききサロンマイスター講座）

	内 容	参加者
第1日目 3月5日(木)	オリエンテーション 講義：「ふれあいいいききサロンって何？」 講師：四日市市社会福祉協議会 職員 講義：「サロン（居場所）をしてみませんか・・・」 講師：大阪市立大学 竹村 安子 氏	31名
第2日目 3月23日(月)	講義：「あっとホームカフェのご紹介」 講師：橋北地区民生委員児童委員協議会 会長 高井 俊夫 氏 座談会：「あなたの地区にふれあいカフェサロンをつくるために」	31名

④公開講座の開催

- ・日 時 平成25年5月2日(木) 午後6時30分～
- ・場 所 四日市市文化会館 第2ホール
- ・参加者 約500名
- ・内容 【対談形式による講演会】
- ・講演 「他人に自分の限界を決めさせられなかった」
- ・講師 JBLリンク栃木ブレックス 田臥 勇太 氏
- ・聞き手 大阪教育大学 准教授 新崎 国広 氏

(4) 福祉総合相談事業

関係機関との連携を図り相談事業の充実に努めた。

- ・開設場所…市総合会館 2階 福祉総合相談室
- ・開設日 …月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分(祝祭日を除く)
- ・相談件数…109件

相談方法	電 話	来 所
件 数	91	18

相談事項	暮らし・住まい	家 族	健康・医療	人権・法律	教育・福祉	その他
件 数	41	22	32	7	51	17

※相談事項は重複

【ふれあいのまちづくり事業 まとめ】

地区社協を具体的に支援する地域福祉活動メニュー事業として、地域で気軽に集える場所づくりとしたふれあいいいききサロン活動は、対象者も高齢者に限定せず、子育て中の母親や、障害のある方が参加できるような多機能型の活動や児童と高齢者の交流活動が増加している。活動実績も32地区（支部）で244グループが9,072回、参加延べ人数は134,607名となり、これらの小地域でのふれあいいいききサロン活動は、昨年度に比べて、11グループ・713回・16,481人増加している。

そして、福祉教育大学では、単に知識として福祉を学ぶだけではなく、学ぶことを通して、受講者の主体性を育み、地域福祉の主体的実践者である「福市民」を育成することを目的として四社協福祉ゼミナールを開講して70名が受講し、福市民として59名登録がした。また、具体的な活動に参画できる市民の養成として専門ゼミナールを開講して31名が修了し、4地区でふれあいカフェサロンが活動開始に向けて始動した。

さらに、地区社協ブロック会長会議を新設し、各地区の情報交換等を行い地域福祉活動の拡充を図った。

今後も、地域福祉活動をより一層推進するため、実施地区への支援はもちろん、職員の参画や情報提供に努めるとともに、関係機関との連携を強化していく。

また、昨年度に引き続き各地区民生委員児童委員協議会へ参画し、民生委員児童委員が取り組む高齢者、障害者（児）への支援、「地域子育てネット0～6会議」をはじめとする子育て支援活動等で明らかになった各地域の社会資源の把握や福祉課題の解決に向けた活動に対する支援を強化した。

引き続き、各地域の福祉課題に向けて、地区社協、民生委員児童委員、在宅介護支援センター、ボランティアなどが行なう福祉活動のネットワーク化に向けての支援を拡充していく。

4. 福祉事業

市民のあらゆる福祉ニーズに対応するため、介護保険事業、障害者自立支援事業、地域福祉権利擁護事業、福祉施設管理運営事業等を実施し、利用者本位の福祉サービス提供に努めた。

（1）介護保険関連事業の実施

①居宅介護サービス事業（介護予防事業含む）の実施

・訪問介護事業の実施

職員体制としては、常勤職員が核となり、職員間の連携を強化し、効率的で利用者のニーズに即した質の高いサービスの提供に努めた。

また、介護予防訪問介護については、利用者の介護予防・自立支援を目標にサービスを提供した。

●介護保険訪問介護サービス延利用者数

区分	市 社 協	その他	合 計
人数	354名	533名	887名

●介護予防訪問介護サービス区分別延利用者数

区分	要支援1	要支援2	合 計
人数	302名	268名	570名

●介護保険・訪問介護サービス内容別延利用回数

区分	生活援助	身体介護	身体生活	合計
回数	2, 373回	11, 885回	2, 737回	16, 995回

●介護保険・訪問介護サービス介護度別延利用者人数

区分	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
人数	260名	175名	185名	86名	181名	887名

②居宅介護支援事業の実施

居宅介護支援事業所	居宅サービス計画（ケアプラン）作成件数	一ヶ月平均件数
居宅（諏訪町）	1, 385件（内、介護予防プラン122件）	115件
居宅（楠町）	885件（内、介護予防プラン121件）	73件
合計	2, 270件（内、介護予防プラン243件）	—

利用者ニーズに即した質の高いサービスを提供する事を目標にマネジメントを行い、居宅サービス計画を作成した。近年、虐待、ターミナル、認知症独居、若年ケース等さまざまな環境におかれた利用者が増えてきている。また、介護者への支援も必要なケース（介護者が認知症、精神疾患、未成年など）もあり、多職種多様の事業所や関係機関と連携調整が必要となってきている。そのため個々の介護支援専門員の質を向上させるため研修会や会議等にも積極的に参加し、各居宅において定期ミーティングを行い各ケースの共有を図った。

- ・各居宅介護支援事業所においてケースミーティングを開催（毎月1回）
- ・介護保険サービス事業者等集団指導（1回）
- ・四日市市介護保険サービス事業者連絡会への参加（6回）
- ・消費者被害防止及び認知症研修への参加（1回）
- ・各地区包括支援センターとの連携会議（中エリア1回、南エリア4回）
- ・医療関係研修（ターミナル、在宅診療、感染症等）6回・・・参加7名
- ・福祉用具・住宅改修研修（新作特殊寝台説明会、住宅改修セミナー）2回・・・参加3名
- ・人権研修（交流分析、人権フェスタ等）4回・・・参加5名
- ・認定調査研修（審査基準等）1回・・・参加2名
- ・防災関係（災害ボランティア関係）1回・・・参加3名

③介護保険認定調査業務の実施

8, 972件(更新・変更申請)の要介護認定調査を四日市市からの受託事業として、調査員18人体制で本業務を行った。

また、より精度の高い調査を行うため、介護・高齢福祉課とのミーティングを行った。

●月別件数（名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
在宅	780	769	794	721	656	629
施設	83	60	119	104	90	122
合計	863	829	913	825	746	751

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	665	487	538	584	567	648	7, 838
施設	91	100	91	65	93	116	1, 134
合計	756	587	629	649	660	764	8, 972

●学習会等

実施日	研修名	参加数
5月24日(金)	調査基準学習会	12人
6月6日(木)	調査基準学習会	15人
7月9日(火)	調査基準学習会	14人
7月11日(木)	調査基準学習会	12人

7月17日(水)	調査基準学習会	10人
7月25日(木)	調査基準学習会	10人
8月20日(火) 21日(水)	認定調査能力向上研修	2人
8月30日(金)	認定調査員現任研修	13人
11月29日(金)	認定調査員研修会(外部講師自主研修会)	12人

④通所介護事業「ゆりかもめ」(介護予防事業含む)の実施

- ・「利用者の自立支援」「利用者による選択(自己決定)」「利用者本位」を基本理念に、安全・安心で信頼されるサービスを目指し、食事の提供、入浴、送迎、生活に関する相談・助言、健康状態の確認、その他利用者に必要な日常生活上の支援、並びに機能訓練を提供した。
- ・実利用者数 958名、延べ利用者数 7,822名、一日平均 26.6名
- ・ボランティアの受け入れを積極的に行い、ボランティアと利用者の交流を深めるとともに、施設の日課の選択肢を広げることで、サービスの向上に努めた。

●月別利用者数(名)及び営業日数(日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	82	77	79	79	81	79	81	80	80	78	81	81	958
延利用者数	653	603	628	671	684	620	686	675	650	654	614	684	7,822
営業日数	25	24	25	26	27	23	26	24	23	23	23	25	294

・障害児・者デイサービス事業

障害児に学校休業日や放課後の日中活動の場を提供するとともに、保護者のレスパイト(休養)等を目的として、介護保険のデイサービス事業所等が活用できる「放課後等デイサービス事業」の利用施設として障害児を受け入れた。

- ・実利用者数 9名、延べ利用回数 12回

また、障害者に対する「生活介護事業所」の利用施設として障害者の受け入れも行った。

- ・実利用者数 16名、延べ利用回数 48回

(2) 在宅福祉事業の実施

①地域福祉権利擁護事業の実施

三重県社会福祉協議会の委託を受けて、判断能力に不安があり、契約内容を一定程度理解できる高齢者や知的・精神障害者等を対象に福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かりなどの支援を行った。菰野町社会福祉協議会が単独で基幹的社会福祉協議会となり菰野町分が減ったものの、新規契約件数は104件で、昨年度に比べ19件(22%)増え、権利擁護に対する住民のニーズの高さがうかがえた。

所長1人、専門員4人、事務補助員1人、生活支援員50人(四日市市43人、川越町・朝日町7人)体制で行政、民生委員児童委員や在宅介護支援センター等と連携を図り、事業を展開した。

また、生活支援員の資質向上を図るため、生活支援員研修会を開催した。

(ア) 相談件数…5,093件(年間)

●相談対象別件数(件)及び割合(%)

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
2,657(52)	1,042(20)	1,363(27)	31(1)	5,093(100)

※相談件数は、専門員及び推進員が利用者や市民等から相談を受け支援を行った件数

(イ) 契約締結件数推移

年 度	新規契約件数	契約解除件数	年度末契約件数
24年度	85	55	269
25年度	104	111	262

(ウ) 平成25年度末実績

a 生活支援員の派遣状況

週に1回	隔 週	月に2回	月に1回
140件	23件	64件	35件

b 利用料負担状況（1回1,000円）

有料	無 料
25件	237件（生活保護受給者…121件、住民税非課税者…116件）

c 市町別契約件数内訳

四日市市	朝日町	川越町	その他
246件	1件	11件	4件

d 契約対象内訳

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他
148件	34件	71件	9件

(エ) 生活支援員研修会の開催

日時 平成25年9月5日(金) 10時～12時

目的 適切かつ多様な支援に対応するため、生活支援員の資質向上を図る。

参加 39名

内容 講義 「生活保護制度を巡る最近の動きについて」

講師 四日市市保護課 査察指導員 岸田 諭 氏

「生活支援員の実務について」

講師 三泗地域権利擁護センター 専門員

(3) 障害者自立支援事業

①居宅介護事業の実施

障害のある人が事業者との対等な関係にもとづき、自らサービスを自由に選択し、契約によってサービスを利用する自立支援制度に基づき、自己決定・自己選択を尊重し、サービスを提供した。

●自立支援制度・居宅介護サービス延利用者数

区分	身体障害	知的障害	精神障害	合 計
人数	569名	85名	177名	831名

●自立支援制度・居宅介護サービス内容別延利用回数

区分	家事援助	身体介護	合 計
回数	5,030回	6,888回	11,918回

(4) 福祉施設等管理運営事業

①中地域包括支援センター

(ア) 包括的支援事業

- ・総合相談支援業務及び権利擁護業務

本人、家族、近隣の住民、地域のネットワーク等を通じた様々な相談を受け、相談内容に即したサービスや制度に関する情報を提供し、担当地区の在宅介護支援センターと連携を行い支援した。また、高齢者の権利擁護の観点から支援が必要な方については地域権利擁護センター等の関連機関と連携し対応を行った。(相談件数年間5, 305件)

・包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

a 在宅介護支援センター中ブロック会議

中地域包括支援センターの担当地域の在宅介護支援センターを対象としたブロック会議を開催し、在宅介護支援センターのランチ機能のあり方や包括支援センターとの連携について担当職員との意見交換会を行った(年間3回)。

b 介護サービス事業者との連携

四日市市介護保険サービス事業者連絡会の企画・運営等に参画し、介護支援専門員や、他の介護サービス事業者との連携を図り、質の高いサービスの提供を図るための研修会や情報交換を行った。

c 医療・介護ネットワーク会議の開催

医療と介護の連携を推進するため、三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)、訪問看護ステーション、訪問リハビリ事業所など医療分野の関係機関とともに担当者間の会議(世話人会)や研修会(全体会議)を開催した(世話人会・年6回、全体会議・年3回)。

d 認知症高齢者等の地域支援体制づくり

地域で認知症高齢者を支えるための基盤づくりとして、地域の関係機関が行う認知症サポーター養成講座に講師として参加した(年6回)。

e 地域包括支援センター連絡会への参加

包括的支援事業の実施状況や介護予防事業の進捗状況の報告及び情報交換のために、市が開催する連絡会に参加した(年12回)。

f 介護支援専門員に対する支援

地域の介護支援専門員からの個別相談に応じ、支援困難事例への指導・助言等を行った。

・介護予防事業に関する介護予防ケアマネジメント業務

二次予防事業対象者把握事業において対象者として決定された方について、生活機能低下の背景・原因及び課題の分析を行うとともに、個々の対象者の方に目標を設定し、目標達成状況等の評価を行った。

(イ) 要支援者(予防給付)の介護予防プランの作成

要介護認定で要支援1・2と認定された方に対して、自立に向けた具体的目標を明確にした介護予防プランを作成し支援を行った。

年間8, 888件(他事業所へ委託1, 862件を含む)

(ウ) 地域支援事業における介護予防事業

・二次予防事業

二次予防事業対象者の方に対して、要介護・要支援状態となることを予防とした通所型介護予防事業(運動器の機能向上・栄養改善・口腔機能向上)と訪問型介護予防事業(閉じこもり

・うつ・認知症予防支援)を実施した。

a 通所型介護予防事業(参加実人数226名、延参加人数798名、開催回数126回)

b 訪問型介護予防事業(訪問実人数17名、延訪問人数24名、訪問回数24回)

・一次予防事業

「よっかいち・はつらつ健康塾!」を在宅介護支援センター、健康ボランティアの協力を得て実施した。(平成25年10月から実施 実施回数42回、合計参加者数838名)

②くす在宅介護支援センター

(ア) 総合相談

四日市市からの委託を受けて楠地区を担当エリアとし、高齢者・障害者等の各種相談に対応した。相談内容に応じて、介護保険サービスのほかに高齢者福祉サービスの申請代行及びインフォーマルサービスが利用できるように調整を行った。

<相談件数>

	本人	家族	その他	合計
来 所	8	92	12	112
訪 問	230	17	0	247
電 話	28	68	103	199
合 計	266	177	115	558

(イ) 地域連携、協力体制の構築

- ・楠地区民生委員児童委員協議会定例会への参加（毎月第二木曜日）
- ・楠地区社会福祉協議会総会への参加
- ・楠地区老人クラブ連合会役員会への参加
- ・楠地区内居宅介護支援事業所情報交換会の開催

(ウ) 介護予防普及啓発、福祉活動推進事業

- ・転倒骨折予防教室「こけねえざクラブ」の開催(毎月第一水曜日)
参加者：平均25名/月
- ・地域行事への参加
街角くらぶ、老人クラブの集まり、くす朝市、楠商工会まつり等へ参加し、在宅介護支援センターのPR、消費者被害の情報提供を行ったり、介護保険制度の説明、介護予防体操、認知症予防等の出前講座を実施した。

(エ) 一次予防事業

- ・「よっかいち・はつらつ健康塾！」の協力
地域包括支援センター・在宅介護支援センター・健康ボランティア（ヘルスリーダー）と協働し、介護予防に関する知識を普及・啓発をしていく。
平成25年5月、7月、8月、10月～平成26年3月 全9回開催
参加者：平均20名/月

③中央老人福祉センター（指定管理施設）

施設の市民利用に供するほか、民踊、詩吟、水墨画、大正琴教室を開催するとともに看護師を配置し、機能回復訓練及び健康相談などに応じ、高齢者の健康管理に努めた。また、利用者ニーズに基づき、歌謡ショー、落語、音楽会を開催するとともに、交通安全講習会や避難訓練、いきいき体操等を行った。

- ・健康相談日数211日 ・延人数 9,043名 ・1日平均 43名

【利用状況】

団 体 利 用 数	一 般 利 用 数	計	一 日 平 均	開 館 日 数
364団体	6,534名	37,595名	44,129名	148名 299日

④障害者自立支援施設「共栄作業所」（指定管理施設）

「共栄作業所」は障害者自立支援法に定められた新事業体系への移行を平成23年4月に実施し、就労継続支援B型事業所として3年目を迎えた。当作業所は、通常の事業所に雇用されることが困難な利用者に対し、生産活動・その他の活動をとおしての仲間づくりや生活面での自立を目指して支援を行った。また、受注作業や自主製品作業に取り組むとともに、利用者の高齢化・障害の重度化が進行する中で、個々の能力や身体機能に見合った作業・生活援助に努め、心身ともに充実した日々が送れるよう支援した。

さらに、利用者が地域で充実した生活を送れるよう、保護者会（NPO法人）が、主体となって取り組んできたケアホーム「クローバー」、「しらとりホーム」の運営についても、ケアホーム担当者会議への参画や、主催行事等への協力を通じて支援を行った。

利用者数34名（定員37名）

活 動	内 容

自主製品作業	さをり織り、縫製、布草履づくり
受注作業	リサイクル解体作業、封筒点字刻印、贈答品箱詰め、製品飾り付け作業、農耕関連作業、割箸の袋入れ作業、紙製品加工作業
実習	職場体験実習・社会実習（買物・ボウリング等）サークル活動（リズムダンス、カラオケ、おやつづくり、ドライブ、町に出よう）
社会体験	即売出店、一泊社会工場見学、さをり織り展示会
運動・レクリエーション	散歩、余暇活動、体操、音楽鑑賞、ミニ運動会、カラオケ大会

- ・自主製品の販売促進のため、地区文化祭などの各種即売に積極的に参加した。また、常時、製品の展示・販売を常設の店舗で行った。
- ・イオン四日市尾平店福祉の店活動行事、人権フェスティバル、四郷文化祭ふるさとまつり、四日市子どもまつりにおける民児協企画イベントなどに参加し、さをり織り体験をとおして啓発活動をした。
- ・第5回目の「さをり織り展示会」を今年度も昨年を引き続き作業所で開催し、さをり織りのPRと販売の拡大に努めた。
- ・個人、団体ボランティアとの連携を図り、作業への協力や、地域交流会(ミニ運動会)、ボランティア交流会(カラオケ大会)をとおして利用者との交流促進をした。
- ・見学者を受け入れ、利用者との交流や障害者理解の促進、福祉体験の場を提供した。
- ・昼の休憩時に遠出の散歩などによる体力づくりに努めるとともに、利用者の健康状況に合わせた食事の提供を行った。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を定例的（年3回）に開催した。
- ・全国社会福祉協議会セルフ協の承認を受けた「幻のなたね油」の販売を継続し、農耕関連作業による就労支援活動の充実を図った。
- ・利用者へのサービスの質の向上を図るため、みえ福祉第三者評価を受審した。
- ・施設機能を活かし、福祉系大学から介護福祉実習（介護福祉士資格取得のため）の学生を受け入れた。

⑤障害者自立支援施設「たんぽぽ」（指定管理施設）

重度知的障害者及び重度知的障害と身体障害を併せ持つ利用者には、利用者本位の支援を行うために、より良い個別支援計画の策定や医療相談の充実を図り、利用者の望む地域での生活をより充実するため、社会資源の活用や各種サービスの利用をコーディネートするなどの支援を行った。

身体機能の維持や社会参加への支援を行い、また利用者をはじめ障害者が在宅生活を送る上で必要な地域住民の理解と支援を促進することを目的に、施設に小中学生を受け入れ、福祉体験・職場体験・ボランティア活動の場を提供した。

利用者数33名（定員35名）

活動	内容
作業活動	アルミ缶回収、缶つぶし、リサイクル用品解体
自立訓練	水泳、散歩、身体機能訓練、理学療法（相談を含む）、作業療法、音楽療法、感覚統合療法、乗馬療法
生活活動	食事、排泄、更衣、歯磨き、社会体験、買物実習、一泊社会体験、グループ外出、半日外出
文化活動	レクリエーション、紙すき、ビーズ、園芸、ステンシル、工作、季節活動、音楽活動、ピアノ鑑賞
在宅支援	ショートステイ先との連携及び移送介護業務先との連携、福祉制度、福祉サービス情報の提供
日中一時支援	四日市市の地域生活支援事業として障害者自立支援法に基づく日中一時支援サービスを提供する。原則として自立支援給付費の支給決定を受けた方を対象とし、広く市民の方に施設を利用して頂けることを目指した。

- ・利用者の身体状況や家族の高齢化など家庭の事情により、外出が困難な利用者や、外出の機会が少ない利用者により一日外出、半日外出を実施するとともに、外出先で食事・買い物をするなど経験領域を広げた。
- ・宿泊を通して、利用者の様々な可能性を見出すことを目標に「一泊社会体験」（鳥羽方面）を実施し、昨年度に引き続き公共交通機関を利用することで、より体験の幅を広めるとともに、社会への啓発を行った。
- ・アルミ缶回収を通して、地域住民や企業及び小・中学校との交流を深めた。四郷地区の栗狩り参加や、たんぼぼ主催のお茶会・夏祭り・餅つき大会・四郷高校吹奏楽部演奏会の開催・地域清掃活動の実施・四郷地区文化祭などの地域行事に参加し、地域住民との交流を深めた。またイオン四日市尾平店での「福祉の店イベント広場」に参加して即売と施設の紹介を行い地域住民との交流に努めた。
- ・缶回収で、地域の小学校を定期的に訪問し、児童との交流を深めるとともに、環境理解や障害理解の促進を努めた。
- ・家族への福祉情報提供の他、利用者が必要とする福祉サービス施設及び関係機関との連絡調整に努めた。また、保護者会の研修会や学習会などにも協力し、「これからの生活」について家族とともに考えることを大切に取り組んできた。
- ・地域交流を深めるため、近隣の四郷在宅介護サービスセンター・グループホーム・四郷保育園等の利用者の方と行事を一緒に行い、より地域に根づいた施設運営を行った。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表、ボランティア代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を定例的に開催した。また、四郷地区の防災行事・人権研修に積極的に参加し、地域の一員としての活動にも力を入れて取り組んだ。

⑥障害者自立支援施設「あさけワークス」（指定管理施設）

平成23年度より自立支援法の新体系「就労継続支援B型」事業に移行し、就労や生産活動の機会の提供、一般就労に必要な知識や能力向上のために必要な訓練を行なう施設として適切な運営に努めた。利用者の障害特性を把握し、一人ひとりに応じた支援プログラムを考え、個別支援計画に基づいて支援を実施した。また専門職である「職業指導員」を中心に配置し、利用者の就労意欲を引き出し、利用者によっては就労移行支援事業等への利用を目指せるよう取り組みを行った。

利用者数12名（定員20名）

活 動	内 容
受 注 作 業	軽作業（リサイクル解体作業、シートカバー作業など）点字名刺・名刺刻印作業
自 主 作 業	押し花製品、クラフト製品
リサイクル作業	アルミ缶回収、空き缶分別作業等
レクリエーション	花見交流会、八郷地区ふれあいまつり、新年ボランティア交流会

- ・地域交流への取り組みとして、地域の多くの方々に来所していただくきっかけとして八郷地区社会福祉協議会との共催事業として「福祉の勉強会」を実施し、NPO法人ピアサポートみえ代表松田慎二氏を講師に招き「ともに生きるために」という演目で障害のある人が地域で暮らせる環境に向けてどうしていけばよいのか講演いただいた。
- ・その他にも地区の招待行事「八郷ふれあい祭り」に参加し、自主製品の販売とともに施設紹介を行い近隣住民との交流を図った。
- ・施設ボランティアの登録と受け入れを積極的に行い、ボランティア連絡会の開催や利用者との交流会を実施した。
- ・体験学習の場として、市内小・中学校生徒の福祉体験やこども人権フォーラムなどを受け入れ施設や障害への理解を促す機会を提供した。

- ・施設も地域の一員であることを自覚するために、地元八郷地区連合自治会主催の清掃活動「クリーンアップ八郷」に利用者・職員全員で参加した。また月一回程度、利用者・職員全員で朝明川の堤防沿いを中心に地域の清掃を行った。
- ・地域に根ざした施設運営を図るため、地域住民、保護者代表等で組織する「施設サービス運営委員会」を定例的に開催した。

⑦障害者福祉センター（指定管理施設）

障害のある人の社会参加と交流の促進を目的として、身体障害者デイサービス事業等を実施するとともに、併せて障害者福祉関係団体の支援や障害者ボランティアの養成、障害者福祉の啓発等を行った。各事業の実施にあたり、市社協がもつ様々の部署と連携して、公の施設として公正・公平かつ専門家によるサービスの提供に努めた。

(ア) 身体障害者デイサービス事業

a 機能訓練事業

言語訓練では、主に脳血管障害の後遺症により、言語に障害のある人を対象に言語症状や社会参加の状態に合わせて個別及び集団による訓練を行なった。また、高次脳機能障害者の集団訓練では、社会参加の機会を広げ、残された機能の向上のための訓練を実施した。

理学療法では、事故や疾病の後遺症などにより、身体機能が低下した在宅の人を対象に機能訓練を実施した。特に、家庭でできる自主訓練や公共交通機関の利用訓練を支援した。

b 社会適応訓練事業

歩行訓練では安全な移動手段としての白杖歩行技術の習得を目的として、移動面の自立支援をおこなった。白杖の紹介から申請、使用方法、そして同行援護利用時の技能について相談で対応した。また、「点字」という文字を獲得することで、自分自身で生活に必要な情報を得られるよう点字教室を開催した。視覚と聴覚に障害のある重複障害者に対して、コミュニケーション手段としての点字の学習の場を提供した。

c 創作的活動事業【笑いヨガ教室】

創作的活動を通して生活の中に潤いを見つけるとともに障害種別を越えた仲間づくりを目的に創作的活動を行なった。笑いヨガ教室は、25年度で終了となる。

[身体障害者デイサービス事業実施状況]

		契約者(名)	回数(回)	延利用者数(名)	
1	機能訓練事業	言語訓練	6	1 1 6	1 1 6
		社会適応訓練Ⅰ・Ⅱ	1 2	3 8	1 9 7
		終了者フォロー等		2 8 6	2 8 6
		理学療法	3 5	6 4 1	6 4 1
2	社会適応訓練事業	点字教室(視覚障害者)	9	2 0	1 2 2
		歩行訓練(視覚障害者)	4	3 3	3 3
		相談等		1 8	1 8
3	創作的活動事業	笑いヨガ教室	1 2	2 0	1 3 3

d 障害児デイサービス事業

18歳以下の児童を対象に、長期休暇中に活動する場を提供するとともに、保護者のレスパイト(休息)等を目的として実施した。家庭や学校では体験できないことを企画し、自律と自主性を育んだ。(利用契約者数61名)

回数	小学生	中学生	高校生	計
14回	54名	11名	9名	74名

e 失語症会話パートナーとの交流会

失語症者が失語症会話パートナーを利用して、会話を楽しむ場を提供した。

	参加者 (名)	回数 (回)	延参加者数 (名)
失語症者	17	22	204
失語症会話パートナー	30		211

f 難聴者・中途失聴者教室

難聴者に役立つ情報や難聴者の体験談、コミュニケーションツールとしてのタブレットの体験を行った。

開催日	内容	参加者
3月15日(土)	「難聴でも大丈夫 コミュニケーションのコツ」 講師：全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	25名
3月22日(土)	理事 藤谷 弘晃 氏 ① 難聴者・中途失聴者の体験談 ② 携帯電話(スマートフォン)、タブレットのコミュニケーションツールの体験	11名

g 障害者相談業務

障害者の自立と社会参加を促進するため、障害者の抱えている課題の解決に向けて言語聴覚士、理学療法士、歩行指導員など経験豊かな専門職員が相談にあたり、より専門的な相談支援機関への紹介等を行った。

(イ) 障害者福祉関係団体の支援

貸館利用がより容易になるように当事者団体の1年間の優先予約や簡便な利用申請など改善を図った。また、障害者団体事務室の利用については共同で利用することで効率化を図った。一方、団体の高齢化や団体を超えての連携などの課題もあり、センター連絡会にて情報交換をしたり、知的障害者の情報交換会、障害者大会の成功に向けて支援を行なった。

登録団体：四日市市身体障害者団体連合会(6団体)、心身障害者団体連絡協議会(3団体)、障害児者関係団体(32団体)、創作的活動自主サークル(12サークル)、ボランティア団体(15団体)の登録がある。

(ウ) 障害者福祉に関する啓発・情報提供

a かけはし掲載5回

社協の広報紙『かけはし』の『障害者福祉センターだより WITH』の常設コーナーで四日市市民向けに広報した。今後も紙面の充実や工夫をはかる。

b 障害者福祉講座の開催

開催日	内容	講師	参加者
6月30日(日)	「脳卒中にならないために」 「失語症とは」 「コミュニケーション・バリアフリー～会話パートナーとは～」	講師：山脇胃腸科内科副院長 山脇 崇 氏 講師：通所リハビリ施設とと 言語聴覚士 佐藤 裕紀 氏 講師：市立四日市病院リハビリテーション科 言語聴覚士 杉浦加奈子 氏	93名

c 出前講座の開催

障害者が地域で安心して暮らせるよう地域の障害者に関する理解の促進を図るため出前講座を開催した。情報の授受に関して自分が工夫していること、配慮して欲しいことなどについて障害当事者を講師に迎え体験談を中心に進めた。また、災害弱者になる障害者を地域で

どのように支援していくのか問題提起を行った。

- ・開催地域 桜・川島・橋北・常磐・中部地区民生・児童委員協議会定例会や老人クラブ連合会で開催。
- ・内 容 聴覚障害（ろう者）の理解：1箇所、視覚障害者の理解：2箇所、失語症の理解：2箇所
- ・参加人数 120人

(エ) 要約筆記奉仕員派遣調整等

要約筆記奉仕員派遣のコーディネートを行った。

- 手書き登録者 19名
- パソコン登録者 20名※市外協力員6名含む
- 両方登録者 11名※市外協力員1名含む
- 合 計 50名※市外協力員7名含む

⑧障害者自立生活支援センター「かがやき」

障害のある人が地域で自分らしい、心豊かな生活が送れるよう幅広い支援に努めた。支援対象者は身体障害者だけでなく、精神障害と身体障害が重複した重度の人や高次脳機能障害の人も多く、関係機関による支援ネットワークの構築が求められた。

(1) 相談業務

●相談件数

実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
215	131	2	61	32	2	6	10

●相談方法

	訪問	来所	同行	電話 メール	ケース 会議	関係機関	その他	計
件数	517	513	98	1337	76	2229	47	4817

●相談内容

	福祉サービス	障害 病状の理解	保 健・ 医 療	不安解消 情緒安定	保 育・ 教 育	家族関係 人間関係	家計・経済
件数	2399	64	576	221	12	428	190

生活技術	就 労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	計
480	228	53	160	272	5083

(2) 自立支援協議会生活支援部会の運営

四日市障害保健福祉圏域自立支援協議会の専門部会である生活支援部会において、地域課題の抽出と解決に向けた協議を行った。特に25年度は当事者や障害福祉サービス事業所と自立支援協議会とをつなぐシステム作りを行い、事業所別の連絡会結成に向けた活動を行った。

生活支援部会：6回

準備委員会：5回

構成委員：行政、障害者支援施設、GH・CH、生活介護事業所、就労継続支援B型事業所、訪問支援事業所、障害当事者、相談支援事業所

連絡会：(居住系サービス事業所連絡会関連会議) 7回

● ツール別のべ相談回数 (回)

来所	電話 文書メール	家庭 入所施設訪問	職場訪問	他の支援 機関	合 計
2, 0 2 1	5, 7 0 2	1 5 7	9 8 8	1, 3 0 7	1 0, 1 7 5

● 相談内容別のべ相談回数 (回)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合 計
就職に関する相談	3 2 0	1, 8 5 5	1, 2 9 1	1 2 2	3, 5 8 8
職場定着に係る相談	5 2 3	3, 4 5 2	1, 3 6 7	6 9	5, 4 1 1
生活に係る相談	7 9	5 1 1	2 6 7	1 3	8 7 0
就業と生活の両方にわたる相談	1 9	2 2 1	6 5	1	3 0 6
合 計	9 4 1	6, 0 3 9	2, 9 9 0	2 0 5	1 0, 1 7 5

● 就職した障害者の数 (名)

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合 計
5	3 6	2 3	1	6 5

(イ) 関係機関との連携

a 自立支援協議会雇用部会、関係機関連携会議 (6回)

参加機関 津障害者職業センター、北勢福祉事務所、障害者雇用アドバイザー、四日市公共職業安定所、一市三町障害福祉課、四日市市商業勤労課、学校関係、就労移行支援事業所、精神障害者相談支援、当事者団体等 20 機関。

内 容 各関係機関の取り組みを情報交換し、障害者の雇用について啓発活動や研修会などを実施。

b 知的障害者就労支援講座 (四日市市商業勤労課と共催)

日 時 平成 25 年 7 月 5 日 (金) 開講式～ 12 日 (金)

募集人数 知的障害者 6 名を募集

内 容 講義 (マナー講座)・職場実習 (市内特例子会社)

成 果 一般企業へ就職 2 名。

(ウ) 講座の開催

就労・定着支援講座 (46名)

日 時 平成 26 年 3 月 23 日 (日)

内 容 就労障害者を講師に招き、求職中の障害者やその家族に対して就職活動をする上で重要なことや働いている大人として持つべき意識について講座を開催した。

(エ) 定着支援のために

a つどい 退社後や休日に集まり、リフレッシュを兼ねた活動や近況報告などをして交流する。

第 1 回：平成 25 年 7 月 3 日(水) 第 2 回：平成 25 年 8 月 15 日(木)

第 3 回：平成 25 年 12 月 2 日(木) 第 4 回：平成 26 年 3 月 23 日(日)

b 就業している障害者の激励会と交流会(38名)

日 時 平成 26 年 1 月 13 日 (月・祝)

内 容 「私が働く職場と働くことの意義」と題して情報交換会を実施

⑪障害者就労支援事業ワークセンター

就労を希望する障害者を対象に、市役所等において、就労に向けた職場訓練を行い、就労に対する意識づくりを高め、次のステップへの土台作りを行った。また、市内事業所 23 社を関係機関とともに訪問し、障害者雇用の啓発を行った。

(ア) 職場実習の状況

●実習した障害者別の人数（名）と日数

身体障害	知的障害	精神障害	合計
1名	3名	8名	12名
19日	92日	239日	350日

●職場実習後の状況

一般就労1名（内定）、市の臨時職員として雇用1名、就労継続支援（A型）事業所へ移行2名、就労移行支援事業所へ移行1名、就労継続支援（B型）事業所へ移行1名、求職中4名、作業所に通所中1名、ワークセンター訓練中1名

⑫よっかいち福祉の店

社会福祉施設利用者や在宅高齢者などの手作り作品を、販売ボランティアの協力を得て、販売した。また、地区文化祭等行事、北伊勢上野信用金庫、その他各関係機関のご協力により、展示即売会を24回実施した。

運営委員会を開催し、運営のあり方、収支等について協議した。

- ・常設店 イオン四日市尾平店3階 開店日数（年間） 365日
 市総合会館1階 開店日数（年間） 198日
- ・年間売上実績 11,221点 3,822,850円

⑬おもちゃ図書館

障害の有無に関わらず、子どもが「おもちゃ」をとおして、情操や知的・身体的機能を高め、ふれあうことを目的とし、おもちゃ図書館ボランティア「よっちゃんグループ」の協力を得て運営を行った。

●おもちゃ図書館利用実績

年間利用者数など	
児 童	4,108名
保 護 者	3,663名
合 計	7,771名
年間開館日数	231日
1日あたりの利用者数	34名

●団体利用実績〔25回〕

種 別	施設名	回数	延べ利用者数
通園施設	あけぼの学園	23回	237名
通園学校	西日野にじ学園	1回	7名
施設	人権プラザ赤堀	1回	12名

●移動おもちゃ図書館〔4回〕

実 施 日	種 別	利用者数
5月23日(木)	あがた保育園子育て支援	45名
6月 5日(水)	神前地区子育て支援	24名
9月11日(水)	三重地区子育て支援	108名
12月11日(水)	八郷西保育園子育て支援	47名

●おもちゃ図書館まつり

- 実施日 平成25年7月25日（木）
- 場 所 四日市市文化会館 第4ホール
- 参加数 404名（乳幼児226名、大人178名）

⑭母子福祉センター（指定管理施設）

母子家庭及び寡婦の経済的・精神的負担を軽減し、生活の安定と自立を促進するため、各種相談や技能習得講座を実施した。また、趣味を通じての生きがいやふれあいづくりを目的としてサークルを支援した。 ・相談件数 275件

【技能習得講座・サークル実施状況】

講座・サークル名	回数	延人数
技能習得講座 ・パソコン	16回	124名
サークル ・書道	24回	263名
・手芸	22回	183名
・ちぎり絵	12回	147名
・編み物	24回	252名
・和裁	36回	172名
・リフォーム	24回	108名
合計	158回	1,249名

5. その他の事業

(1) 第4次地域福祉活動計画の推進

「第4次地域福祉活動計画」（平成23年度～27年度）に基づき、計画の基本理念である「安心して暮らし続けることができる『福祉のまちづくり』」を推し進め、積極的に各種事業を展開した。

(2) 福祉サービス相談窓口の開設

市社協が提供する福祉サービスに対する利用者の満足度を高め、利用者の権利を擁護し、利用者が福祉サービスを快適に利用することができるよう支援するため、福祉サービス相談窓口を開設した。

相談受付状況

	件数	申出内容	対応及び結果
要求	6件	<p>①訪問介護事業所 派遣日にヘルパーが来なかった。ヘルパーとしての自覚など適切な指導をしているのか。</p> <p>②介護保険認定調査室 調査に際して、訴えを十分に聞いてもらえなかったため、丁寧な聞き取りを行ってほしい。</p> <p>③介護保険認定調査室 認定基準に従った判断や確認をしてほしい。</p> <p>④介護保険認定調査室 調査結果や調査員の対応に不満があり、納得できない。納得の出来る説明と調査員の資質向上を望む。</p> <p>⑤たんぼぼ 利用者同士の喧嘩について、施設が仲介して欲しい。</p> <p>⑥たんぼぼ 送迎バスの到着時間が異なる際に、連絡がないのはおかしい。到着予定時間に待っていたが、通り過ぎた後だった。</p>	<p>①事実確認の結果、申し出人の思い違いであったことについて了解を得た。訪問忘れについては、全ヘルパーに注意喚起を行った。</p> <p>②責任者が申し出人に連絡し、了解を得た。全調査員に丁寧な聞き取りを行うよう指示した。</p> <p>③事実確認の結果、申し出人の内容に食い違いがあったが、全調査員に調査項目の徹底を指示した。</p> <p>④市介護高齢福祉課係長と責任者が申し出人宅を訪問し、説明を行い、了解を得た。</p> <p>⑤施設が仲介し、双方の親に了解を得た。また、全職員にも周知した。</p> <p>⑥施設側の勘違いであり、時間をかけて謝罪し、了解を得た。また、原因と再発防止について会議を行い、職員に周知、徹底した。</p>

請求及び責任追及は0件		
結果	解決	6件
	継続	0件

(3) 職員の安全衛生

①第1回衛生委員会

実施日・場所 平成25年6月24日(月) 市総合会館 3階技能習得室
 内容:「メンタル疾患等における長期休業者対応の原則」について～中嶋産業医解説
 「年間安全衛生管理計画」の実施について
 第86回「全国安全週間」にともなう当法人の取組について

②第2回衛生委員会

実施日・場所 平成25年9月13日(金) 市総合会館 4階会議室
 内容:「職場の安全衛生について“巡視の際のチェックポイント”」について～中嶋産業医解説
 「産業医」による職場巡視を当日実施
 ⇒市総合会館2階権利擁護センター及び3階障害者福祉センター
 「全国労働衛生週間」の実施に合わせ、本会も10月1日～7日「ゼロ災活動」を実施し、
 全職域に啓発用ポスターとワッペンを配布
 衛生委員による職場巡視の実施について
 ⇒11月1日(金)衛生委員全員で「中央老人福祉センター」、楠「ゆりかもめ」巡視
 実施巡視実施)

③第3回衛生委員会

実施日・場所 産業医に報告後決裁文書回覧にて衛生委員会に替える
 ⇒11月13日(水)全委員合議決裁済み
 内容:安全衛生委員による「職場巡視チェックリスト」の総括及び集計報告書を回覧
 巡視2施設へ「職場巡視結果報告書」を送付し労働環境の改善を促した。
 ⇒対象2施設へ「職場巡視対応届」の提出を依頼

④第4回衛生委員会

実施日・場所 平成26年3月14日(金) 市総合会館 4階会議室
 内容:平成25年度「職員健康診断結果」を基に産業医の講評
 平成26年度本会の「年間安全衛生管理計画」
 ⇒「安全衛生に関する基本方針」及び「年間安全衛生目標・スローガン」の決定

その他

第一種衛生管理者等の資格取得支援

『安全衛生推進者養成講習会』…3名講習会参加後、安全衛生推進者として登録(あさけワークス、
 ゆりかもめ、たんぼぼ各1名)

『第一種衛生管理者』…2名が免許試験受験準備講習会参加後、資格試験を受験し合格

(4) 資金貸付事業の実施

生活福祉資金は、24年度に比べ求職中の人を支援する総合支援資金は減少したが、教育支援資金
 や技能習得費等の申請は増加した。緊急小口資金は前年度とほぼ同数の申請があり、一時的な生活
 費に困っている方の一助となった。

また、貸付件数が落ち着いてきたことから、滞納整理に力を入れ、9名の借受人の面談を行い多
 少なりとも返済につながった。

①生活福祉資金貸付事業の実施

三重県社会福祉協議会が行う資金貸付事業で、低所得者、障害者、高齢者を対象に貸付の相談、

申請、返済などの窓口を担当した。

※は貸付期間が複数年になるもの

資 金 の 種 類	貸付件数	貸 付 金 額
※教育支援費・就学支度費	3件	2,290,000円
自動車購入費(障害者)	2件	3,032,000円
転宅費	1件	388,000円
葬祭費	1件	396,000円
療養費	1件	818,000円
福祉用具購入費	1件	238,000円
技能習得費	3件	992,000円
福祉費(エアコン購入)	2件	183,000円
※不動産担保型生活資金	1件	9,969,423円
総合支援資金(生活支援費)	26件	13,838,000円
総合支援資金(住宅入居費)	4件	852,805円
総合支援資金(一時生活再建費)	6件	1,086,000円
緊急小口資金	85件	8,120,000円
臨時特例つなぎ資金	30件	2,900,000円
計	166件	45,103,228円

②資金貸付事業の実施

福祉金庫(A)は生活保護受給者、(B)はその他の低所得者を対象に市保護課と、国民健康保険高額療養費は、市保険年金課と、介護保険資金は市介護・高齢福祉課と連携して貸付業務を行った。

資 金 の 種 類	貸付件数	貸 付 金 額
福祉金庫(A)	125件	1,662,000円
福祉金庫(B)	284件	7,810,000円
国民健康保険高額療養費	45件	7,953,208円
介護保険資金	1件	92,137円
計	455件	17,517,345円

(5) 実習生等の受け入れ

将来の福祉を担う人材育成を目的に、福祉専門職(社会福祉士・介護福祉士・ホームヘルパー)や、看護師、または、小学校・中学校福祉体験、四日市市新規採用職員研修等を受け入れ、本会が持つ機能、役割などについて学ぶ機会を提供した。

種 別	人 数
社会福祉士	1
介護福祉士	10
ホームヘルパー	17
看護師	16
市新採職員	34
小・中職場体験	8
その他	5
合 計	91

(6) 財政基盤の安定化

①社会福祉協議会会費

会 費 の 種 類	会 員 数	会 費
普通会員	1,145人	808,000円
団体会員	346団体	3,361,745円
計	—	4,169,745円

②善意の基金

香典の一部または全部、チャリティ募金等を社会福祉のために、という趣旨の寄付で、基金の運用益等を地域福祉事業の財源としている。

	積立額	基金（年度末現在）
平成 2 5 年度	6, 7 8 0, 4 8 8 円	1 7 8, 1 8 0, 6 1 9 円

③収益事業

a 「喫茶ふれあい」の経営

営業日数	246日
年間総収入	9, 749, 464円
1日平均利用数	約54名
1日平均売上額	39, 631円
収益金（一般会計繰入）	0円

b 「総合会館売店」の受託運営

営業日数	252日
年間総収入	33, 133, 960円
1日平均利用数	約285名
1日平均売上額	131, 483円
収益金（一般会計繰入）	600, 000円

④共同募金運動（三重県共同募金会四日市市共同募金委員会事業）の推進

種別	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)
一般募金	42, 551, 000	39, 357, 767	92. 49
歳末たすけあい募金	1, 300, 000	1, 131, 962	87. 07
合計	43, 851, 000	40, 489, 729	

⑤寄付金等

a 現金

趣旨など	寄付額
香典の全部または一部、チャリティバザー等	3, 780, 488円
上記以外の寄付 (企業から施設への指定寄付、NHK歳末募金等)	3, 208, 100円
合計	6, 988, 588円

b 物品寄贈

車いす、プロレス観戦チケット など

⑥資産運用

自主財源の確保を目的に、本会資産運用規程に基づき、長期国債を中心とした資産運用を行い、今年度は、政府保証債の売却等により2, 605, 814円の利益があった。